

研究専攻（専門領域）		文化構造研究専攻		学籍番号	06CS018
氏名	前田 公子	ローマ字	MAEDA Kimiko	国籍 (留学生)	
修士学位論文名	アメリカ南部における CIO の人種政策 —ルーシー・メイソンから見るオペレーション・ディクシーの再考—				
提出年月日	2009 年 1 月 13 日	指導教員	有賀 夏紀		
体裁 ( 論文 )	43 頁 (1 頁文字数 1200 字)	言語	日本語		
別冊添付資料等					
キーワード	CIO オペレーション・ディクシー ルーシー・メイソン				
<p>アメリカにおいて黒人は、南北戦争後に奴隷から解放され、憲法で平等な市民権が謳われていたにもかかわらず、実質的には市民として認められることはなかった。そして黒人は人種隔離体制の下で、白人に対して従属的な地位に置かれたのである。また、南部の白人貧困層の人々も黒人と同じように差別されていた。白人貧困層の人々は黒人を自分たちより下の地位に止めておくことに執着し、そして支配層の人々は白人貧困層の人々の意識を利用し、支配層の利益を守っていたのである。白人労働者と黒人労働者との間の階級意識は、白人の優越意識と複雑に絡まり合い、両者がひとつの労働者階級として団結することは難しかったと考えられる。</p> <p>1886年には白人熟練工のための労働者組織であるアメリカ労働総同盟(AFL)が誕生した。それに対し1938年には人種を差別しない全労働者のための労働組合として、産業別組織会議(CIO)がAFLから独立した。1938年の発足当初からCIOは南部で活動を始めており、1946年にはオペレーション・ディクシーと呼ばれる政策を行った。しかし、オペレーション・ディクシーは、一般的には失敗に終わったと言われている。ところがそれは、当時の人々との証言と一致していない。そこで、オペレーション・ディクシーが行われた第二次大戦後の時期だけではなく、1937年に遡ってCIOの発足当時から南部での活動を通し、黒人労働者と白人労働者との関係を見ていくことによって、南部のCIOの人種政策の意義を示すことが本論の目的である。</p> <p>CIOの組織化の失敗の原因としては、AFLや権力者による妨害や、CIO組織に対する白人労働者の抵抗や、教会からの抵抗などが大きかった。歴史家が今日振り返ってそれを見た時、CIOは失敗したように見えるのかも知れない。しかし、CIOの移動大使であったルーシー・メイソンの報告書・著書から、CIOの人種政策を再考することにより、当時の労働者にとってCIOの活動は、大きな前進があったことを示してゆく。</p> <p>また、全米黒人地位向上協会(NAACP)が、「経済民主主義と政治的民主主義」がCIOによって行われているということの評価し、CIOは「民主主義の光である」と述べている。CIOの南部活動は労働組合を通して、黒人労働者と白人労働者間の人種の壁を取り去り、労働者に経済民主主義と政治的民主主義をもたらすことを目指したのである。それは人種差別の歴史に大きな変化を起こし、白人労働者が示した黒人労働者への「尊厳」は黒人の公民権取得へと向かっていたと言える。そのことは、白人のCIO組織者による早期の公民権運動であったと言ってもよいだろう。南部におけるCIOの人種政策は、白人労働者や黒人労働者にとって、そして当時の南部において意義のあるものであった。</p>					